

## 植物科学科3年「グリーンライフ」 校外学習

令和2年1月10日（金）宍道湖西部浄化センター（出雲市大社町）で、施設の働きと役割について、施設管理担当者の方からお話を聞き、地域資源の活用と環境問題の両立について考えました。



毎日家庭から排出される下水や汚水がどのように処理され海に放水されるのか、その仕組みと普及の状況がわかりました。ここに集められた汚水をきれいにするものは、小さな“微生物たち”。何種類もの微生物の働きによって、汚水が浄化されると同時に、どんな種類のものがどれくらいいるかを知ることで浄化の進み具合がわかる「指標生物」としての役割も果たしていることがわかりました。

そして、この施設は平成元年から稼働していること、下水管の埋設区域は宍道町から湖陵町までの地域で下水道普及率は約45%。島根県全体でもまだ42%くらいであることを知ることができました。

下水道でない水洗トイレの場合は、合併浄化槽式。その場合、台所や洗濯機からの排水は、そのまま河川や海に流されていく家庭が多いようです。

水環境が守られることで、そこで育つ魚介類を安心して食ベルことができ、私たちの健康や安全が守られることを改めて考えることができました。





・浄化センターに初めて行きました。浄化センターは、下水処理で環境を整えたり、街を浸水から守ったりする。西部浄化センターは、海に放水するから少し規制は緩いけど東部浄化センターは、中海に放水するため少し厳しそうです。

昔は、川が汚く、臭いがきついなと思うことが多かったそうです。現在は、下水道が引かれ浄化センターが役割を果たすことで川や街がきれいで臭いも少なく住みやすいんだなと思いました。

今日、校外学習で宍道湖西部浄化センターに来て、普段目に見ることがない施設を見ることができました。そして、この施設があるから私たちの安心して安全な環境で過ごしているんだなと思いました。H、F

・私は浄化センターのことを何も知らなかったので、詳しく教えてもらいよかったです。実際に見学してみると、最初の汚い水からきれいになるまで12時間しかかからないと聞き、驚きました。微生物のすごさを感じました。微生物が水をきれいにするのは知っていましたが、ここまできれいになるのかと感心しました。R、O

・今回、下水道のしくみについて教えて頂きました。きれいな水になるまでいろいろな工程があることに驚きました。ここで、働かれる方々は年中無休で私たちの暮らしを支えて下さっていることを改めて知ることができました。S、K

・微生物の観察では、汚泥を塊にするフロッグにする働きを知りました。目に見えないところで、すごい力があるんだなと思いました。そうした微生物の数を週一回調査してその結果を浄化状況の指標の役割を担い、酸素量などの調整をして大変な仕事だと思いました。この仕事あるおかげで、快適な暮らしが作られているのだと改めて思いました。R、T

この地域での豊かな暮らしとは、地域資源の活用や魅力化について考えるとともに、環境問題への取り組みとの両立が大切であることを感じました。

この学習を踏まえて、出雲地方の持続可能社会の実現に向け、郷土の未来に貢献する精神と創造性を引き続き養って参ります。